

未来を拓く学習法：プロジェクト ベース学習（PBL）完全ガイド

成瀬喜則（富山大学・名誉教授）の解説に基づく



予測困難な時代に、
求められる
「生き抜く力」



『将来の変化を予測することが困難な時代を前に、
子供たちには、現在と未来に向けて自らの人生を
拓いていくことが求められている』



グローバル化や価値観の多様化が進み、これまでの経験
則が通用しない現代。既存の知識を学ぶだけでなく、
自ら課題を発見し、他者と協働して解決する能力が不可
欠です。

その答えが、 プロジェクトベース学習 (PBL)

現実社会の問題を自ら発見し、解決することで、
未来に必要なスキルを獲得するための学習法。



起源: 米国の教育学者ジョン・デューイの学習理論を源流とする。



位置づけ: アクティブラーニングの代表的な手法であり、教育現場や企業研修で広く活用される。



目的: 現実の問題を整理し、課題を見出し、自らの力と他者との協働を通じて解決する能力を育成する。

PBLの2つの型：チュートリアル型 vs. 社会連携型



チュートリアル型



- **課題:** シナリオで提示される
- **学習:** 既知の知識・経験を基に新たな知識を主体的に学習
- **設定:** 現実に近い状況を疑似体験
- **期間:** 比較的短期間での学習が可能
- **目標:** 教室内の設定で問題解決プロセスを練習する

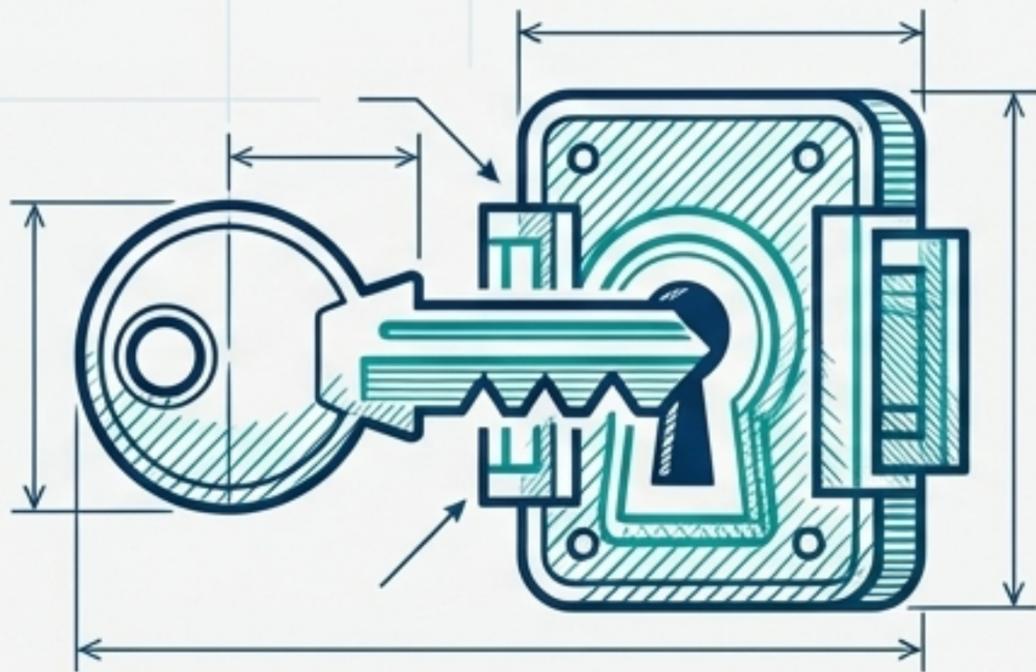
社会連携型



- **課題:** 実際の社会で発生した 이슈
- **学習:** 地域社会や外部組織と協働し問題解決能力を育成
- **設定:** 実社会の課題に取り組む実践型
- **期間:** 多くの場合、長期的な学習が必要
- **目標:** 実社会で通用するコミュニケーション能力や課題解決力を獲得する

探究学習との違い：課題解決か、課題発見か

プロジェクトベース学習 (PBL)



焦点: 定義済みの具体的・社会的な課題を解決する。
重視点: 問題を「どのように解決するか」というプロセス (調査、分析、議論、発表)。

「すでにある明確な課題に対して解決策を
考えて考えていくことが多い」

探究学習 (Inquiry-Based Learning)



焦点: 広範なテーマから、学生自らが課題を探し、発見し、定義する。
重視点: 「課題そのものを見つけ出す」という探究の行為。

「課題そのものを自ら求め、考えて、
それに取り組むところを重視する」

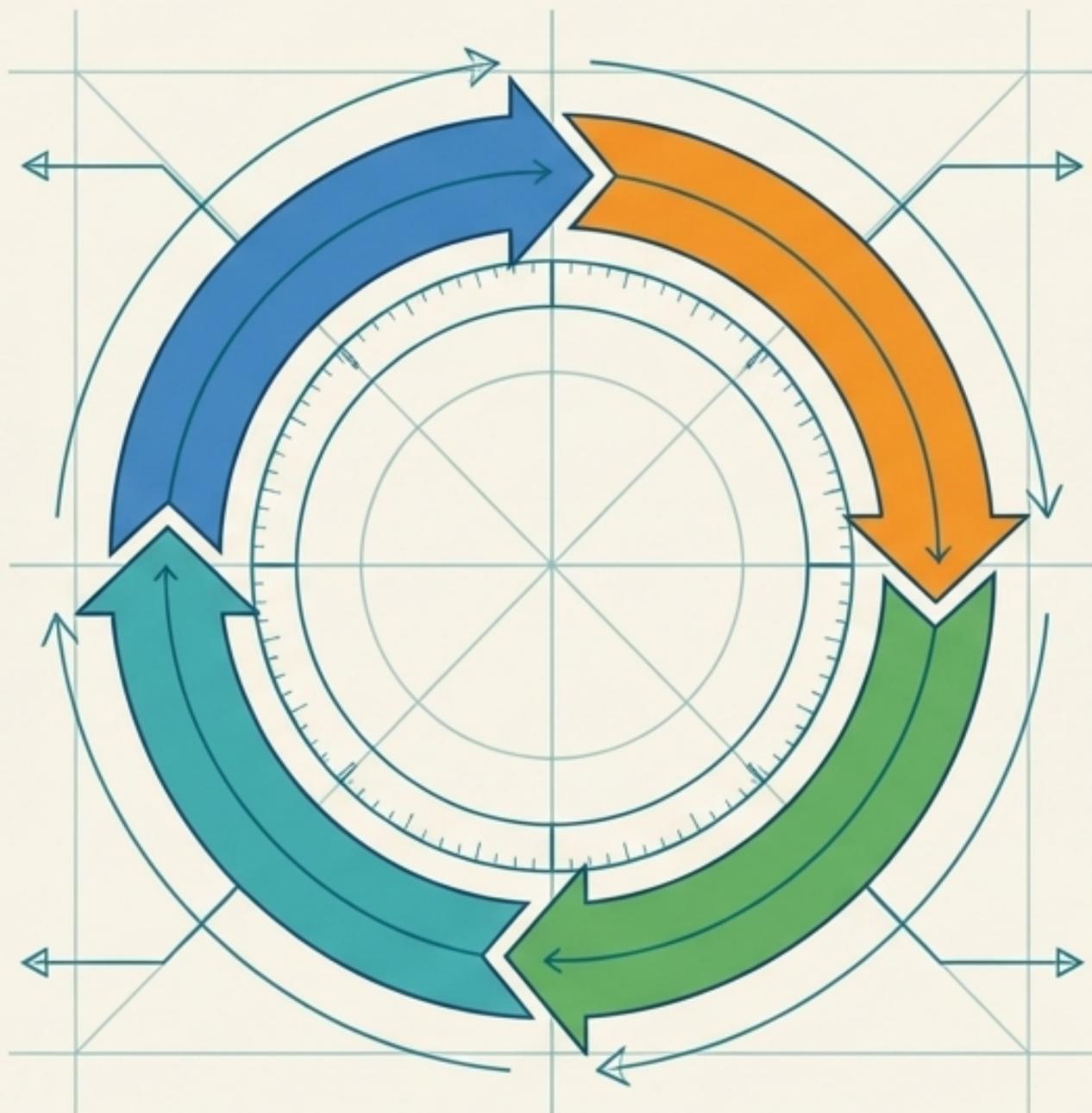
PBL実践のブループリント：4つのステップ

1 目的・課題設定、
計画立案

2 課題に関する調査と
分析、結論と考察

4 評価をもとにした
改善点の明確化

3 プロジェクト成果の
発表、評価



このサイクルは、一度だけでなく複数回繰り返されることで学びが深まります。

ケーススタディ：「地域の良さを生かす仕事を見つける」



The Challenge

多くの地域と同様、人口減少、高齢化、若者の流出に直面。



The Opportunity

同時に、地域の魅力に惹かれた若手起業家が移住してくる新たな動きも。



The Goal

このダイナミズムを調査し、地域の資産を活かしたキャリアの可能性を発見する。

STEP 1: 計画 | 「自分事」として捉えられる課題を設定する

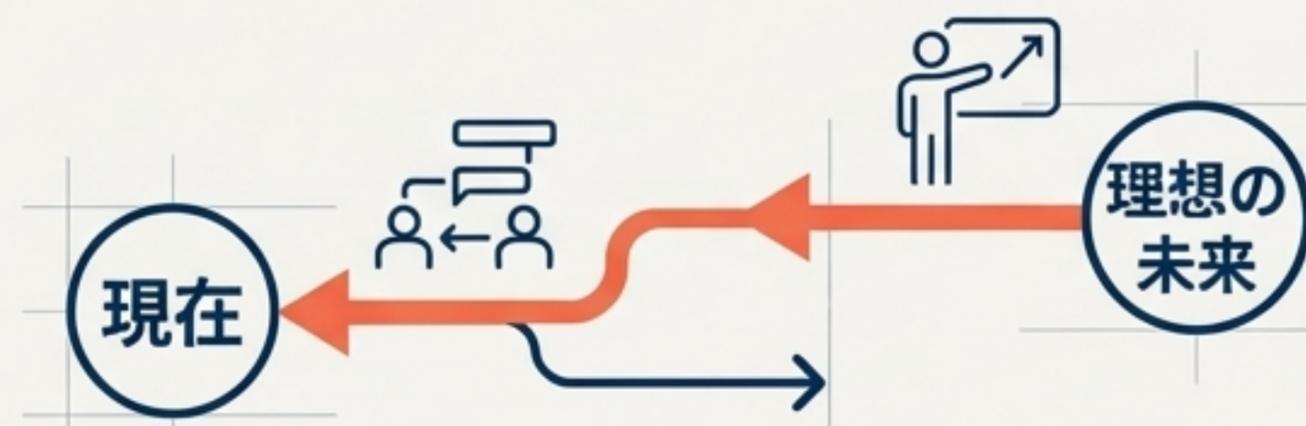
課題は抽象的でなく、解決可能な具体的なものに。

学生が自分自身の問題（自分事）として捉えられるかが重要です。



フォアキャスト (Forecast)

現状と課題を分析し、未来を予測して解決策を考案する。

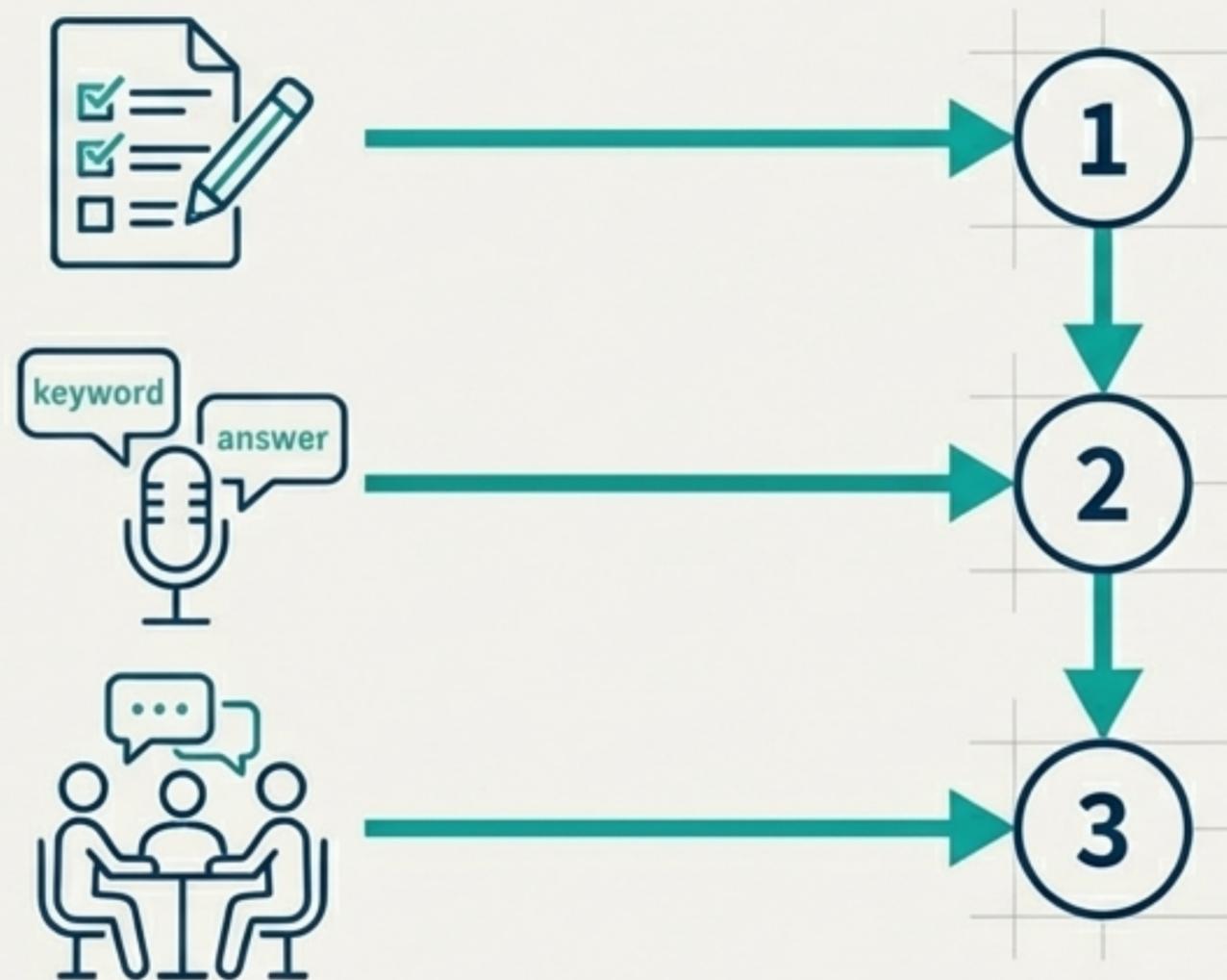


バックキャスト (Backcast)

最初に理想の最終状態を描き、そこから逆算して必要な行動を決定する。

STEP 2: 調査・分析 | 生きた情報を集め、本質を探る

Core Activity : 地域の若手起業家や住民へのインタビューを通じて、一次情報を収集する。



質問を列挙

インタビューで聞きたいことをブレインストーミングし、内容を精査する。

インタビューとキーワード抽出

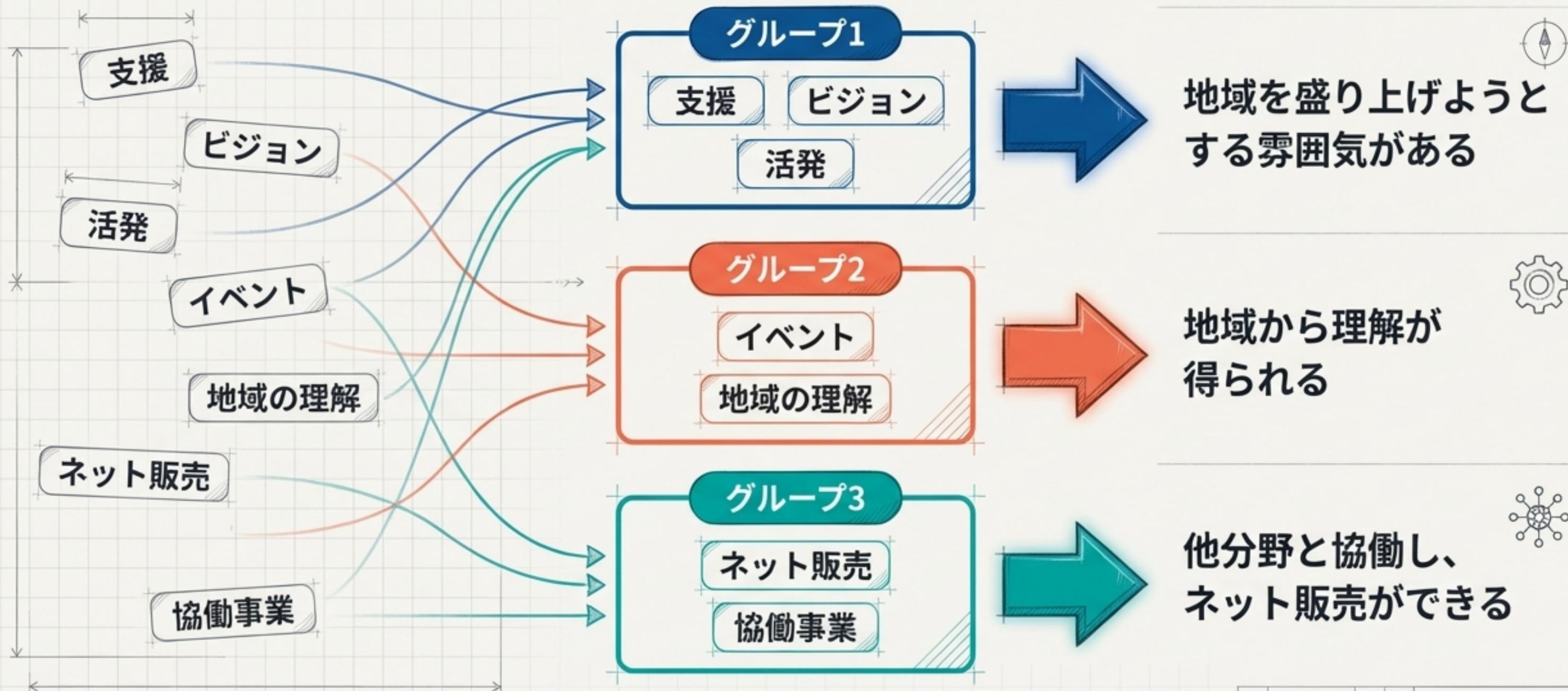
対話を実施し、会話の中から重要と思われるキーワードを抜き出す。

有益なものを選び検討

抽出したキーワードの中から特に価値あるものを選び、グループで議論する。

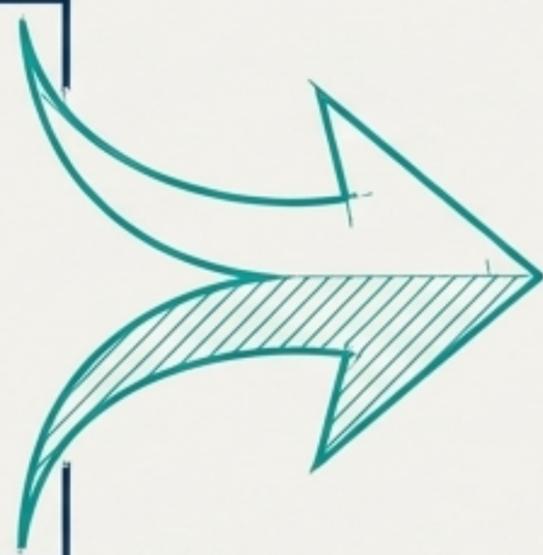
その他、住民アンケートや行政機関へのヒアリングなども有効な調査手法です。

キーワードを「グルーピング」し、インサイトを抽出する



インサイトから、具体的な解決策へ

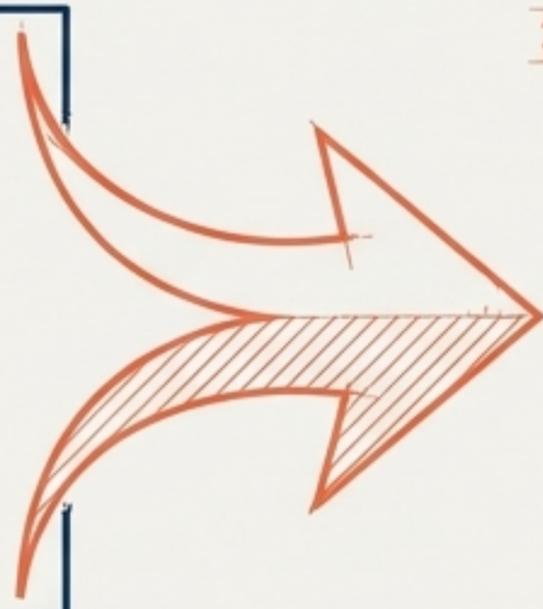
- ⊕ Insight: 「地域を盛り上げる雰囲気」
- ⊕ Problem: 人によって心地よいと感じる対人距離が異なり、ミスマッチが起きる可能性。



Project Idea: 「コミュニティ・コミュニケーションルール」の策定、または円滑な交流を促すオンラインアプリの開発。



- ⊕ Insight: 「他分野と協働」
- ⊕ Problem: 若者が「自分に合う仕事が見つからない」と感じ、伝統的な企業以外の選択肢に関する情報が不足している。



Project Idea: 地域の企業、個人商店、起業家を調査・網羅した、若者向けのローカルキャリア・データベースを作成する。

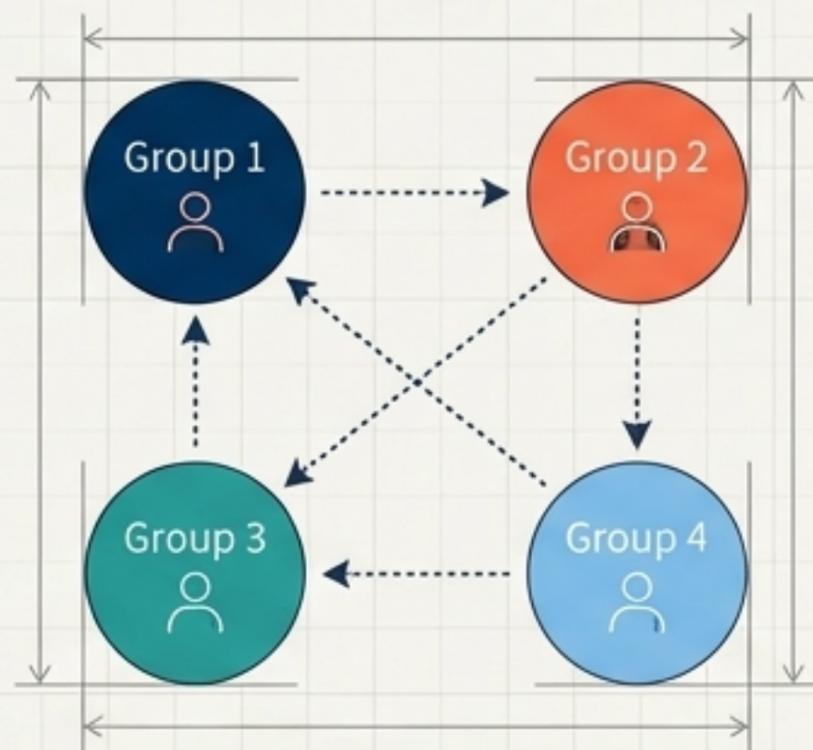


STEP 3&4: 発表・評価・改善 | 共有と振り返りで学びを深化させる

STEP 3 & 4

STEP 3: 発表・評価・改善

グループ間の情報共有が最も重要。各グループの成果を発表し、フィードバックを交換します。



**推奨手法：ジグソー法 - 各グループの代表者が他のグループを訪問し、アイデアを説明・質疑応答を行うことで、理解を深める。

STEP 4: 共有と振り返りで学びを深化させる

最後に「振り返り」を行うことが不可欠です。



- ▶ 多様な視点を受け入れることができる
- ▶ 他者への説明能力が向上する
- ▶ 自らの取り組みへの自信が醸成される

成功するPBL、3つの要諦



1. 課題の的確な認識

挑戦の核心を徹底的に把握する能力。



2. 客観的なデータ分析

客観的な手法を用いてデータを分析するスキル。



3. 他者が納得する表現

調査結果と解決策を、説得力を持って伝える力。

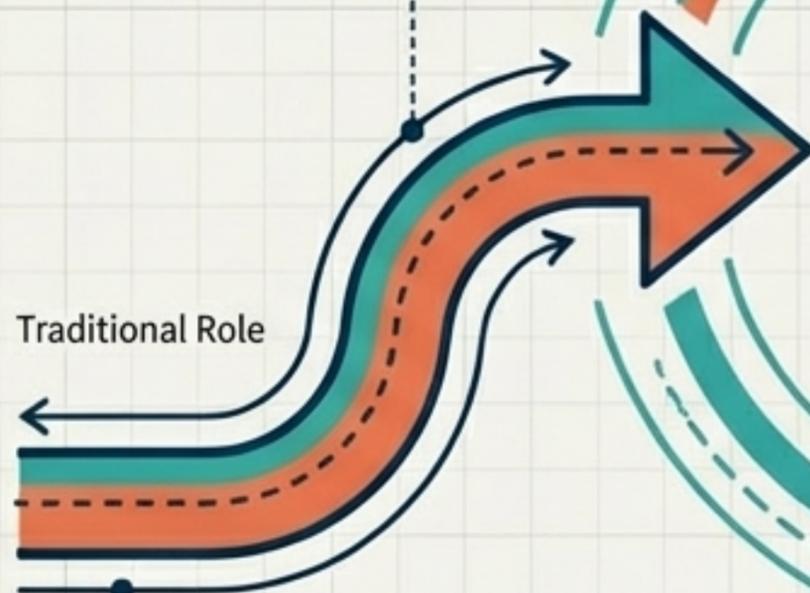
教師から、学びの「ファシリテーター」へ

PBLにおいて、教育者の役割は変化します。一方的な一斉授業から、学生が主体的に問題に取り組むための支援者へと変わります。

→ **ファシリテーターとして、グループワークや議論を導く。**



Traditional Role



Facilitator Role

→ **支援者として、学生の相談役となる。**

→ **多様な意見を統合する協働的な学習環境の創造者となる。**

PBLを、自分事に。

個人で考え、グループで協議し、フィードバックを得る。
この学習サイクルに慣れることが、PBLを自らの力とするための道筋です。